

科目名	ピアノ奏法研究 I～VIII	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	3	年次	1, 2, 3, 4

＝授業科目の目標＝

ピアノ演奏の基本の技術を実際にマスターし、段階を追って高度なテクニックを身につけ、バロック、古典、ロマン派、近代、現代に及ぶ数多くの作品を通じて各自の個性、特性を生かした創造的表現を高める。

＝履修の条件と学習の方法＝

楽譜を正確に読み、強弱、楽語の理解は準備して臨む事。

楽曲分析をし、演奏可能になったら、音源を何種類か聞き自分自身の疑問点、問題点を見つけ、レッスンに臨み、質問できる事が望ましい。

図書館の利用を期待する。

＝授業内容＝

レッスンの進度に応じて各期 15 回の指導を行います。
学年ごとの授業内容は下記のとおりです。

(1年次)

1期 基本的な演奏技術の整理をしつつ、バロック時代のポリフォニーを理解をする。

2期 古典派ソナタを通し、分析能力を高め、ソナタ形式の理解をする。

(2年次)

3期 Beethoven ソナタを通し、ハーモニー感、特にゆったりとした 2 楽章を演奏する事でカンタービレ奏法の表現を身につける。

4期 ロマン派の作品を通し、音色追求と表現の幅を広げる。

(3年次)

5期 レパートリーの拡大をはかり、秋の学内演奏会に向け、演奏能力を高める。

6期 Chopin の練習曲と前奏曲と教材に、テクニックの整理と曲の性格への理解を深め、自分の演奏スタイルをさぐる。

(4年次)

7期 将来の進路に合わせ、レパートリーの拡大と、演奏能力の向上、自分の課題を明確にし、楽曲へのアプローチの方法、練習方法等、自立への道を修得する。

8期 将来の進路に合わせ、レパートリーの拡大と、演奏能力の向上、自分の課題を明確にし、楽曲へのアプローチの方法、練習方法等、自立への道を修得する。

＝成績評価の方法と評価の基準＝

(V) と (VII) は定期実技試験は実施せず、各担当教員の評価による。

実技試験の評価は、レッスンで学んだことの習熟の度合、音楽の理解の度合、演奏技術、表現力などを総合的に判断して行います。

＝その他＝

テキストは、それぞれの学生が全く違う速度で進んでいるのでその都度担当教員との相談で決める。

